



## ～戮力協心～ NO.4

2023年8月29日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

～当たり前の労働運動を胸に～

## 中村氏、松寄氏に誓う！！

8月24日、中央本部と本部青年部の7名で、埼玉県本庄市にある中村辰夫氏（元JR貨物労組教宣部長）と、同県東松山市の松寄明氏（元JR東労組執行委員長）の墓参りをしました。



中村さんは1993年8月27日の未明、自宅で何者かに襲撃され殺害、一緒にいた夫人も重傷を負いました。血の流れ出る音が聞こえたほど（夫人談）凄惨な現場でした。当時マスコミは犯行声明も出ていない段階から、警察が発表した「内ゲバ（仲間割れ）」としてこの事件を一斉に報道しました。

事件発生時、中村さんは出向しており、JR貨物本体よりも長い期間関連会社に在籍していました。中央本部や地本の指導部でもない中村さんが何故襲われたのでしょうか？

かつて、首切りなどの人員整理への反対運動に対し、下山事件・三鷹事件・松川事件が発生。労働組合員の犯行として封殺してきた歴史があります。国家権力が反対勢力を壊滅させるには、手段を選ばないのです。

JR貨物労組の結成に尽力した中村さんが襲われたという貨物労組への組織破壊攻撃と捉える側と、労働組合とは切り離された個人の事件であると捉える側で亀裂が入ってしまえば、組織の不団結へとつながります。議論には、取り巻く情勢や事実関係をはっきりさせなければなりません。1993年9月10日の全国代表者会議において、この8.27事件について具体的な事実にもとづいた議論を組織の隅々まで行ない、職場の一人ひとりまで意思統一をはかることが提起されました。

現在、貨物労組は総団結方針の貫徹にむけて取り組んでいます。組織破壊攻撃に抗するには、具体的事実にもとづいた議論を浸透させ、全組合員の意思統一をもちとることが大切です。中央本部は8月に新たな職場討議資料を発行しました。読み合わせを通して「党派の介入を許さず」「綱領、規約・諸規則、機関決定を守る」という核心点2つを全青年部員で一致させて、組合員のために活動する当たり前の労働運動を追求しましょう！！



JR総連の礎を築いた  
故松寄氏を墓参

総団結方針の貫徹において職場の隅々まで議論をつくりだし  
強靱な貨物労組をともにつくり上げよう！！